



# 楠の葉

佐賀大学同窓会報 第16号

発行日 2012年1月1日

発行 佐賀大学同窓会

佐賀市本庄町1 佐賀大学内  
TEL 0952-23-1253  
FAX 0952-25-5700  
E-mail dosokai@ai.is.saga-u.ac.jp  
ホームページ http://dousou.ext.saga-u.ac.jp

編集代表者 江村 正



佐賀大学同窓会会長

宮島

豊秀

(教育・35卒)

## 佐賀大学統合10周年記念事業 美術館設置事業 募金に当って

旧佐賀大学は、昭和24年旧制佐賀高等学校、佐賀師範学校、佐賀青年師範学校を母体として、文理学部と教育学部をもつ総合大学を目指して設立されました。昭和30年に、農学部が分離独立し、昭和41年には、文理学部が経済学部、理工学部及び教養部に改組され、平成8年には、教育学部改組により、文化教育学部が設置されました。

佐賀医科大学は、昭和51年に医科系の単科大学として設立され、昭和56年に医学部附属病院が開院し、平成5年に看護学科が設置されました。さらに、平成15年10月1日に旧佐賀大学と佐賀医科大学の統合が行われ今日に至っております。

佐賀大学では、統合10周年を迎えるにあたり、記念事業として本学の象徴となる美術館設置事業及び正門整備を行うこととなり、この事業の推進が始まりました。

美術館設置事業については、特別教科（美術・工芸）教員養成課程（60周年）の伝統に裏打ちされた、学生、教員及び卒業生の代表的な美術・工芸に関する作品を収集・保管するとともに、旧佐賀大学、佐賀医科大学及び各学部等の歴史資料等を展示・公開し地域の方々の鑑賞に供し、これに関する教育及び研究に有意義に活用するとともに、芸術及び文化の振興を図ることを目的としており、その資金調達は寄附金による建設を考えています。

佐賀大学は、これまで培った文、教、経、理、医、工、農等の諸分野にわたる教育研究を礎にし、豊かな自然溢れる風土や諸国との交流を通して育んできた独自の文化や伝統を背景に、地域とともに未来に向けて発展し続ける大学を目指すことを佐賀大学憲章として宣言しています。

さらなる飛躍した佐賀大学を目指す絶好の機会として、本事業の趣旨に是非ご賛同いただき、同窓会の皆様方の格別のご協力、ご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。これを契機に地域の方々に芸術的な雰囲気を感じていただき、我が佐賀大学がより愛され、誇りとされることを心から期待するものであります。

# 支部だより

## 福岡地区支部総会・懇親会

平成23年7月8日、福岡市天神の西鉄イン福岡13階「ブロッツ」において、福岡地区全学同窓会を開催しました。来賓として大学関係者及び各同窓会の代表の皆様11名と、同窓会会員65名、合計76名のご参加をいただきました。

今回の同窓会も、清村克行支部長及び世話人3名を中心として他常任幹事13名により、2月から準備を始め、合計4回実行委員会を開催しました。

当日の司会は、今年度の当番幹事の平木俊敬氏（経済・49卒）が行いました。司会が開会を宣言し、まず物故者への黙祷を行いました。次いで佐賀大学同窓会宮島会長に挨拶をいただき、有朋会宮尾会長の乾杯の音頭で交流が始まりました。今回は2年ぶりの同窓会ということもあり、再会した参加者の間では2年分の話話が飛び交い、



初めて出席した参加者も、在学中あるいは今の佐賀大学の話題に花が咲きました。そして、宴もたけなわになり、全参加者による校歌・寮歌の熱き歌声が会場に響きました。より賑やかに、より楽しく、より親しく、先輩・後輩・同期生それぞれに、盃を交わし親睦を深めることができました。

最後に、当番幹事より、次回の当番幹事の紹介があり、再会を約し、楠葉同窓会石丸会長の音頭による万歳三唱で終わりました。次回が大へん楽しみです。

常任幹事 田中 博之（経済・60年卒）

## 諫早支部懇親会

平成23年10月22日、諫早市内のホテル「L&Lホテルセンリュウ」にて、平成23年度諫早支部の懇親会を開催しました。本部より宮島会長をはじめ、各学部の代表者4名を迎え、併せて島原支部より高柳忠昭氏にも御出席いただき、総勢22名の出席でした。

始めに、臼井支部会長から歓迎の挨拶があり、先日諫早文化会館であった数学者藤原正彦氏の講演【諫早高校創立100周年記念】から引用して、「これからの日本人に必要なことは、論理、知識に加えて、高度な情緒力であ



る。すなわち、それらは、中学、高校でのクラブ活動、大学での教授、友人などとの交流などで育つ。そしてまた、同窓会活動もそのひとつである。その意味でも、同窓会は活性化、維持、発展させなければいけない。2年後の創立30周年に向けて、組織体制なども見直し、活性化を図る所存であるので、本部のご支援をお願いしたい。」との力強い言葉で締めくくりました。

次に、宮島本部長に来賓者を代表して祝辞ならびに大学の現況を説明していただいた。特に印象的であったのは、平成25年10月を目途に【美術館建設】が計画されていることが挙げられた。構内に美術館を持つ大学は少ない。最後に、各学部の学動状況にも触れられ、特に各学部が行政と巧みに連携して佐賀県の文化、経済、工業、農業などの各分野で活躍されていることが説明され、出席者一同、母校の生き様に深い理解を示した次第です。

懇親会は、古川和義支部顧問（教育）の音頭でスタート。紅一点の大石かおりさん（教育）もすっかり溶け込んで和やかな2時間であった。最後に長濱孝其支部副会長（教育）のリードで学生歌「楠の葉の」を斉唱、万歳三唱で有意義で楽しい懇親会を閉会しました。本部長他来賓の諸兄に感謝しております。

支部会長 臼井 寛（文理・34年卒）

## 大分支部総会・懇親会

平成23年10月29日、大分市内の「大分センチュリーホテル」において、大分支部の総会・懇親会が開催されました。

同窓会本部から、宮島同窓会長をはじめとする5名の来賓にお越しいただき、支部会員26名（うち女性2名）が参加して盛会に行われました。



総会では、1年間の経過報告と事務局次長の交代が承認され、新体制が発足しました。

続いての懇親会は、宮島同窓会長をはじめ3名の方にご挨拶をいただいた後、開宴。毎年出会うなじみの顔あり、初参加の初々しい？顔ありで、あちこちで笑顔がはじける楽しいひとときとなりました。学生時代の昔話や近況報告、仕事や趣味の話など楽しい会話に酒もすすみ、あっという間に時間は過ぎていきました。

聞くところによると、「先日の某支部では理工学部が0だったが、大分は6人の参加があって大変うれしい!!」とのこと。「ほう！そうかい、大分の総会も捨てたもんじゃないな」などと自画自賛。その一方で、「来年、もっと多くの方に参加してもらうにはどうしたら……」と思いを巡らすうちに終宴。来年の総会での再会を約束して散会しました。

まだ見ぬ大分支部会員の皆さん、来年は是非お会いしましょう。

事務局 佐藤 吉昭（農学・元年卒）

## 山口支部総会・懇親会

平成23年11月19日土曜日、宇部市の国際ホテルにて佐古前学長にご出席いただき、総勢18名で山口支部の同窓会を開催いたしました。

終始和やかに会は進行してゆきました。日の入り直前の4時に開催し午後7時までのゆっくりとした時の中で、自己紹介と現況報告をしながら、それぞれの方が原点に立ち戻りながら青春時代の思いを話しておられました。

次回開催地については、下関市・美祢市・山口市・その他に山口県東部地域等が候補に挙がりましたので、今後ご意見を集約して参りたいと思います。約7年間のブランクの後に山口支部同窓会を開催したもので、次の同窓会はあまり期間を空けずに実行したいと思っております。

このたびご参加いただけなかった方も是非次回の開催の節には御出席賜りますように願っています。



最後になりましたが、公務多忙の中で遠路を物ともせず本部より有馬佐賀大学同窓会会長代理、時井楠葉同窓会副会長、米満理工学部同窓会監事に御出席をいただきまして誠にありがとうございました。

事務局 今村 哲夫（経済・52年卒）

## 東海支部（不知火会）総会・懇親会

平成23年11月26日(土)、名鉄ニューグランドホテル（名古屋市内）で、第20回東海支部総会・懇親会を開きました。本部から宮島同窓会会長はじめ、各学部同窓会会長（宮尾、金丸、石丸、田中の各氏）と理工学部同窓会からは、秋永副会長・中島理事・穂屋下理事・米満監事の方々ご来賓9名を迎え、会員19名の参加で総勢28名が集まりました。



今回は、理工学部同窓会の強力なご支援をいただき、理工学部の同窓生の参加が目立ちました。

総会では、林支部長から秋吉英治新支部長へのバトンタッチが承認されました。また、顧問が新設され今までの支部長経験者3名を林支部長が推挙し承認されました。幹事は留任となりました。

総会後の懇親会では、参加者が一人ずつ自己紹介を兼ねて近況を報告しました。同窓会というだけあって大学を卒業して50年余り、40年余り……そして卒業して3年と年代の幅の大きさに感無量となりました。また、佐賀をはじめ九州出身者が多い中、東海地区出身という会員もあり、佐賀大学が一地方大学から抜け出しつつあることを実感しました。そして、卒業後は日本全国に散らばりそれぞれの分野で活躍していることを思うと誇らしくも思えてきました。各地に同窓会支部が設立されていることが何よりの証しです。

会の最後は恒例の巻頭言発声、そして、寮歌「南に遠く」、学生歌「楠の葉の」を全員で歌い、2年後の再会を期し散会しました。

事務局 御厨 静夫（教育・45年卒）

## 第19回 佐賀県青春寮歌祭

晩秋佐賀の恒例「佐賀県青春寮歌祭」が今年は19回目にあたり、「エスプラッツホール」で開催された。言うまでもなく寮歌は各地の旧制高校で生れ、その数2500を超えるという。その旧制高校は1960年に廃止され、以来50年が過ぎ去った。当時紅顔の若者達は、今や頭に霜を戴きあるいは禿頭と化してしまった。昨年「日本寮歌祭」が50年の幕を閉じたのもいたしかたない事であった。そこで佐賀では、旧制・新制が合同で主催する全国でもユニークな「佐賀方式」を推進してきた。

さて母校（旧制佐高、佐大）の出番は21番目。高松正二氏（S37卒・英文）による気合の入った巻頭言に始まる寮歌「南に遠く」の乱舞、つづく「佐大学生歌」は作曲者・坂口清映氏（S31卒・一小）の指揮でOB達の孫のような佐大混声合唱団との合唱。「吉井浜思い出の歌」では佐大学生達が舞台前面で坐ってオールを漕ぐ所作で、OB達が歌うという演出。正しく「佐賀方式」を具現化した舞台となった。佐賀高女のコーラスは新鮮で唯一音楽的と言えるものであった。往時、旧制佐高生との間ではロマンスも生れたかも、など思い巡らしたのである。終了後、寮歌祭の余韻の残る会場で「合同懇親会」。佐大農学部開発の「酒麴」の酒をおいしく頂いた。最後に、情熱を持ってこの祭を支えて下さっている方々へ敬意を表したい。

真砂 泰夫（文理・40卒）



# 第43回日展 特選(2回目)を受賞して

文化教育学部 准教授 徳安 和博

この度、第43回日展第3科（彫刻）におきまして、2回目の特選を受賞させていただいたことに、まず、関係各位の皆様には厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。皆様のご支援なしには本当に実現できなかったことだと心から思っております。

ここ約20年間余りの日展のための制作は、とにかく精一杯つくっては見たものの、展覧会場で見て本当にこれで良かったのか、悪かったのか結局わからず、答えを確認できないままに次の制作に向かうという、真っ暗な道なき道を、ただ感覚と勘を頼りに進んだり戻ったりしているという感じでした。

あまりに迷いすぎてまったくわからなくなったときには、原点に戻ってみるという打開策の一つで、今回は量感表現の一点集中で制作しました。『束』という題名もそれなりに意味をしっかりと込めたのですが、題名よりも《誰にも負けない量感表現》に集中した、というのが、実際のところでした。

そういう風に今回は目的が明快だったためか、直接たくさんの方からお褒めの言葉をいただくことができました。ある芸術院会員の先生からは、「今回の作品が一番いい部屋の真ん中においてもまったく引けを取らない作品だね。」と仰っていただきました。また、ある美術評論家の先生からは「この時代にこれほどの量感表現の作品に出合えるとは思ってもみなかった。」とお褒めをいただきました。審査評には「特選の中でも出色の作品である。豊かで堂々としており、人体具象彫刻の最も大切な、充実した量感表現と、デッサン力がある。作者の精神の格調高い緊張を表現している。」とあり、嬉しすぎる気持ちもある反面、来年の私の日展の作品にガックリされないためにはどうしたらよいだろうかという心配も既にピークに達しています。

先日行われた日展の表彰式では、日展理事長の中山忠彦先生が祝辞の中で「みなさんはようやくスタートラインに立ったばかり」とおっしゃいました。

おっしゃるとおり、今回の作品は私にしかできない新しいことをやってのけたわけではないので、一度成功したからといって、ここに安住することはできません。やはりこれからも失敗を重ねながら、暗中模索を延々と続けていくことに変わりはないようです。しかし、制作を続けていけることは、同時に喜びでもあります。その特殊な状況が今、私の日常にあることに深く感謝しつつ、皆様のご厚情に支えられながら、これからも精進して参りたいと思っております。



## 佐賀大学経済学部と 楠葉同窓会との意見交換会

11月30日（水）、恒例の経済学部との意見交換会が、ホテルニューオータニ佐賀において18時30分から開催された。

経済学部からは富田学部長、山下・平地両副学部長、山本就職委員長、木島事務長及び池上佐賀大学キャリアセンター長の出席があり、同窓会からは石丸会長ほか5名が出席した。

初めに、富田学部長から、平成25年度から実施予定の学部改組構想について説明があった。

これは、現在の「経済システム課程」、「経営・法律課程」を、平成25年4月から「現代経済課程」、「企業経営課程」、「経済法学課程」の3つに分け、受験生や企業に専門性をより明確にするとともに、併せて、カリキュラムについても経済・経営・法律の3分野融合的なものへの見直し及び専門科目を7つのコア科目群に整理した履修方法の見直し等を進めるものであった。

続いて、平成23年度10月1日現在の学生の就職内定状況について、山本就職委員長及び池上佐賀大学キャリアセンター長から説明があった。

平成23年度の全国四年生大学の就職内定率は59.9%と過去から2番目に低く、本学では、医学部関係を除く学部生の内定率は58.0%と、昨年度の62.8%を4.8%下回り過去最悪である。なお、昨年度は金融機関の女子採用が多い状況があった。

経済学部のみでも内定率は68.0%と昨年度を1.6%下回っており、幸い11月25日現在では内定数が更に増えはしたものの、就職希望者が昨年度から全学的に増加しており、中には就職活動疲れしてしまう痛ましい事例も報告された。

その後の質疑において、同窓会側から地場企業に後継者がいない事例が増えているとの問いかけに対し、大学側からは、最近では自営業への就職はほとんど無いと応答された。

大学としては、一般に、学生の地元企業への就職意欲は根強く、特に佐賀・福岡圏内に広げた場合の希望は75%に達するが、1、2人の細かな求人がもれていると思われ、大学がコンタクトを取っていない企業からの情報は教えてもらいたいとのことであった。

そのほか、大学側としては、企業の人事担当者以外からの細かな就職情報や、また学生の就職後のフォローのために、既に就職している企業内の卒業生の協力を熱望しているが、折角の同窓会員名簿も同窓会活動以外には使えない個人情報保護の壁があり、その面での同窓会の協力が強く求められた。

今後、諸々の具体的協力検討について、恒例の意見交換会にとどまらず、ほかにも機会を作っていくこととなった。

文責：釘本 勁（44卒・文理法）



# ワクチンギャップをなくそう！

佐賀大学医学部地域医療支援学講座 坂西 雄太 (医18期)



こんにちは！私は初期研修後に佐賀大学病院・総合診療部に入局し、現在は佐賀大学医学部地域医療支援学講座に所属しています。

平成22年3月まで3年弱、総合診療部からの派遣で北海道の幌加内町ほろかないの町立国保病院に勤務していました。幌加内町は旭川の北に位置し、人口1700人台で病院は町内に町立病院しかなく、近隣の総合病院までは救急車でも1時間かかります。主産業は農業で、なかでも蕎麦は日本一の生産高を誇ります。打ち立ての蕎麦は本当に絶品です。冬はマイナス20℃を下回ることもあり、朱鞠内湖という湖ではワカサギ釣りもでき、その風景はフィンランドを思わせ、とても美しい町です。町立病院の医師と町の保健福祉総合センターのセンター長を兼任し、センター長として子どもたちを病気から守るために「任意ワクチンの公費助成」を町に提案しました。幌加内では町長はじめ行政の理解があり、日本で初となる6種類の任意ワクチンの公費全額助成を実現しました。

日本では、ワクチンは定期接種と任意接種に分かれています。これらはそれぞれ法律が異なり、定期接種は原則的に自己負担なしですが、任意接種の接種費用は全額自己負担になります。BCGや3種混合ワクチンなどが定期接種になります。定期接種については自治体から各家庭にお知らせが届いたり、ポリオワクチンなどは集団接種となるので忘れることも少ないのですが、任意接種については自治体のホームページやお知らせなどにもほとんど情報がありません。費用もかかり、情報も少ない任意ワクチンなので、一般の方はそんなに重要なワクチンではないかと思ってしまうと思います。ところが、これらは実は医学的にもとても重要なワクチンなのです！

ワクチンで予防できる病気のことを「VPD」と呼び、WHOは『21世紀において全ての子どもはVPDに罹ることなく生きる権利がある』と謳っています。他の先進国では国のプログラムとして接種できる多

くのワクチンが日本では未だに「任意」とされ個人の責任で接種しなければならず、ワクチンギャップと呼ばれています。例えば、髄膜炎を予防するヒブ、小児用肺炎球菌ワクチンやB型肝炎、水痘（みずぼうそう）、おたふくかぜの各ワクチンなどは任意ワクチンですが、WHOは国のワクチンプログラム（＝定期接種）に推奨しています。水痘やおたふくかぜは自然に罹った方がよい、と誤解されている方もおられるかも知れませんが、水痘で脳炎などを起こし重症化することや妊婦さんが罹ると赤ちゃんに影響することもあり、おたふくかぜでは治らない難聴になることもあり、やはりワクチンで予防することが大切です。

ワクチンってなんとなく不安という方はぜひ「VPDを知って、子どもを守ろう。の会」のホームページをご覧ください。『VPD』と検索すると一番上にヒットします。

ワクチンで予防できる病気は、病気全体からみるとごくわずかですが、せめて世界で標準的に行われているものだけでも、経済的な事情を気にすることなく全ての子どもたちに打ってあげられるように必要なワクチンの定期接種化や、定期化されるまでは自治体による公費助成が必要だと思います。みなさんもぜひ住んでいる自治体や議員さんに声をあげてください。子どもたちを守るためには、一人ひとりの声が必要です！

紙面の都合で地域医療支援学講座についてはお話できませんでしたので講座のホームページとブログを見ていただけると幸いです。

地域医療支援学講座 ホームページ

<http://www.coms.med.saga-u.ac.jp/>  
ブログ『地域のあんしんを守りたい。』

<http://sagacom.blogspot.com/>

# 教育先導大学を目指す 佐賀大学eラーニングの挑戦

高等教育開発センター 教授 穂屋下 茂（機・49卒）



昨年は日本列島が激震に襲われました。一日も早い復興を心よりお祈りいたします。

さて、同窓会の皆様に、佐賀大学のICT活用教育の一部を紹介します。

佐賀大学では、eラーニングスタジオを設立し、2002年度から全国の大学に先駆けて単位の取得できる科目としてVOD型フルeラーニング（本学ではネット授業と呼ぶ）を実施しています。ネット授業は着実な展開をなしており、2011年度には、27科目を提供するまでに至っています（約2,600名が履修登録）。ネット授業は、時間や場所から講義が開放されるメリットがあります。一方、講義の質や聴講生確認等にはかなり注意を払っています。

開講科目としては、『21世紀のエネルギーと環境

問題』『人間社会とコミュニケーション』の他、『チャレンジ佐賀学』『伝統工芸と匠』『有田焼入門』『吉野ヶ里学』などの地域性の高い科目も開講しています。著名な匠や郷土歴史家でも、大学の教壇に立った経験がないと非常勤講師として依頼することが難しいのですが、ネット授業化することにより、様々なジャンルの講義を学生に提供できるのは素晴らしいことです。また、ネット授業は教員免許状更新講習でも役立っています。

この他、中学の英語、数学、生物、化学、高校の英語、数学、物理、生物、化学などの教材も、eラーニングスタジオで全て作成しています。これらの教材を使って、理工学部では本年度から入学前教育をeラーニングで実施することになりました。佐賀新聞の記事を紹介します。

## 佐賀大、推薦合格者に入学までeラーニング実施

佐賀大学は理工学部の推薦入試合格者45人を対象に、eラーニング（ネット学習システム）による入学前学習を実施する。学習意欲を持続させるとともに、教員とのコミュニケーションを通して研究への関心を高めるのが狙い。ほかの学部や一般入試の合格者への受講拡大も目指す。

大学の推薦入試は12月に合格発表があり、入学まで3カ月以上の“空白期間”が生じる。問題プリントを配布して入学前学習を促しているが、効果を高めようとeラーニングの活用を検討。理工学部で重要な科目になる数学でスタートすることにした。九州では初めての取り組みで、全国的にも珍しいという。

問題は高校レベルで、大学教員が作成。受講者は1～3月、専用サイトで週1回出される問題をパソコン上で解答し、担当教員が学習状況を確認する。教員にメールで質問もできる。パソコンを持っていない生徒には貸与するなどして利用環境を確保する。

林田行雄理工学部長は「学習内容は入学後に必要な基礎になる。eラーニングの機能を生かして、持続的な学習を促したい」と話す。（佐賀新聞 2011年12月22日）

# 農学部同窓会の皆様へ…近況報告

放送大学特任教授 佐賀学習センター所長 小島 孝之

佐賀大学を退職して5年目に入ります。平成24年3月には、放送大学も退職しますが、大学教官、教員として教育研究にずっと関係させて頂きました。

今、佐賀大学を退職して、放送大学にお世話になっているわけですが、放送大学の学生には15歳から80、90歳の学生さんまで実に年齢層は厚く、さらにその職種なども多様で、キャリアアップを目指す教員、学士取得を目指す学生、看護学士を目指す看護師、会社員、団体職員、公務員、退職して勉強を始めた人、元大学教員、ほんとにあらゆる人たちが学んでいます。

今日は日曜日、今、佐賀大の教授に面接授業をして貰っていますが、面接授業は普通の大学授業と同じ形式の対面授業ですが、一般の大学の授業とは違った雰囲気や緊張感もあります。質問も非常に的確なものが多く、それぞれの専門の先生方も張り切って、講義してくれています。毎回、学生による授業評価もしています。

最近では、課題を以て入学してくる学生もいまして、卒論（必修ではありません）を希望してくることも増えてきました。所長が面談したり、卒論のテーマ、計画書を書いてきてもらい、課題に対応して頂けるような、佐賀大学の教授等を探してお願いしています。

逆に、面接授業を受けて、この先生について研究を仕上げたいという学生（企業の研究者）2人が佐賀大の理工の博士課程に入学することになったり、医学部で卒論をお世話になってきた学生が、今度は継続して佐賀大医学部の大学院に進学するなどの状況が生まれています。

一方で、人付き合いが苦手な、遠隔授業でのみ勉強していくというタイプの学生もいます。中には、人付き合いなどの対応が未熟な状態にいる学生もいますので、時々授業中等、多数の人が集まる状況の教室で、何かのきっかけで緊張の糸が切れ、パニック状態になることがあります。いろいろな状況の学生

を受け入れ、いろんな状況に即した配慮をしています。そして、人間の持つ学ぶという権利を守れるよう努めています。勉強したいという欲求、そして自ら勉強し、知識を広め、深めていくことで喜びを感じることが出来るのは、人間という動物だけが持つ特権です。その学びの場を、あらゆる立場状況の人に与え、勉強という楽しさを味わって頂くとともに、私自身も常に考え学び続ける生活を維持していきたいと考えています。ここが人生の生涯学習の場であることを実感し、刺激を受けています。私自身も、放送大学の全科学生です。現役の先生も、退職した先生ももう一度学生になって、楽しい勉強をどうぞ!!



20111102 203高地に行ってきました。  
大連理工大学と大連外語大学を訪問し、放送大学と何か連携ができないか等を調査するため、大連へ行く機会がありました。…真中が私です。  
苑復傑 放送大学教授(左)、崎元達郎 熊本学習センター所長(前熊大学長) (右)とともに。



## 同窓生の職場

16

## 佐賀中部保健福祉事務所

保健所がどういう仕事をしているか? 「捕犬所?」「保険所?」等々あまりイメージが湧かない人が多いかと思えます。

保健所は、ひとことで言うと病気や健康被害の未然防止といった「予防医学」の仕事をしています。

具体的には、法律に基づく次のような業務を行っています。

## 『医療行政』

「医療法」という法律に基づいて、地域の「医療計画」を作ったり、医療機関の「立ち入り調査」を行ったりしています。

最近、「医療法」により、医療機関の機能分化を進め、相互に連携し合う「地域連携パス」と言われるシステムの構築が求められています。また更に、医療だけでなく、介護や福祉とも連携し合う「地域ケア構想」が打ち出されており、保健所はその連携推進の役割を期待されています。

## 『結核感染症対策』

「感染症法」に基づいて、結核や腸管出血性大腸菌等の法定感染症の対応を行っています。具体的には、患者へ入院勧告や就業制限をかけたり、疫学調査で接触者の範囲を決めその健康診断を行ったりしています。

最近、新型インフルエンザの発生や耐性菌の出現等で、ますます重要な業務になって来ています。また、世界的なテロの懸念の高まりに備えて、感染症テロ対策訓練も実施しています。(写真は



昨年度実施の「天然痘テロ対策訓練」の風景)

## 『精神保健対策』

「不穏状態」により、緊急入院を必要とする精神障害者については、保健所が「精神保健福祉法」に基づいて、入院措置を行います。

今後、入院患者の地域移行が進む中で、治療中断により急性増悪した場合でも、早期に対応できるように保健所による入院措置体制の充実・強化が望まれています。

## 『食品衛生・環境衛生業務』

昨年度、ドイツを中心として腸管出血性大腸菌O-104の集団食中毒が発生しました。発症者4050人、死者49人と多くの犠牲者が出ました。

この事件の特徴は、健康な若い女性を中心として、HUSの発症率が25%と異常に高く、死亡率も高かったということです。(後で新種の耐性菌による食中毒で、抗生物質が効かなかったために重症化したことが判明しました。原因食品は有機栽培の野菜でした。)

このような場合に、疫学調査を実施し、原因施設・原因食品・感染経路の特定を行い、原因施設の営業停止、原因食品の廃棄・回収、予防法・治療法の提言等、健康被害の拡大・再発防止を行うのも保健所の重要な仕事です。

以上、保健所の主な仕事について紹介させて頂きました。あまり目立つことのない仕事ですが、非常に重要な役割を担っていると自負しています。今回いくらでも、その仕事の一端を理解して頂けたら幸いに思います。

保健監 古賀 義孝 (医4期)



## 第33回むつごろう祭を終えて

医学科2年 鈴木 貴大

今年も10月7日～9日にかけての3日間、佐賀大学医学部学園祭“むつごろう祭”を開催することができました。テーマは「大橙爆発 佐賀医はオレンジ家 オレンジ家来ないか!? 2011」。テーマカラーはオレンジ色で、最近暗い話題が多い日本を佐賀から明るく元気にしていこうという意味を込めました。また「大橙爆発」という文字は、その字の如く若いエネルギーを力いっぱい弾けていく様を表しています。

さて、今回お呼びしたゲストはHIP HOPアーティストのSOUL'd OUTや女性歌手のBENI、お笑い芸人のWエンジン・フォーリンラブ・ブルーリバー、メディアでも活躍中の澤口俊之先生などの様々な著名人で、来場者の方々も大いに楽しんでおられました。

また、ステージ企画や医学展、キッズスクエア、障がい者体験、献血など医学生ならではのオリジナリティ溢れるイベントを企画し、そのような学園祭を作り上げる難しさを実行委員共々感じつつも、作り上げる喜びを十分に感じていました。

最後になりましたが、今年も無事に学園祭を成功できたのも様々な方々からのご支援があってこそだと深く感謝しております。この度は、佐賀大学同窓会から多大な寄付を賜り、実行委員一同、心より御礼を申し上げます。



## 第14回佐賀大学大学祭

学園祭中央実行委員会 委員長 新満智恵子

11月5日(土)・6日(日)に佐賀大学本庄キャンパスにて、第14回佐賀大学大学祭が開催されました。

今回の大学祭のテーマは、鮮やかな色を用いた濃密な彩を表す極彩色という言葉をもとに「極祭色」と掲げました。誰もが持っている一人ひとりの多彩な個性を大学祭で発揮させ、溢れさせて欲しいという思いを込めました。この思いが皆さんに届いたのか、両日とも天候には恵まれませんでしたが、バザー店出店団体が過去最高の55団体であったことをはじめ、がばイベント、ステージでの企画にも数多くのサークルや学生に参加して頂きました。私たち実行委員以上にキャンパス内を色とりどりの“極祭色”に染め上げて頂いたと思います。また学生だけでなく、見事来期J1昇格を決めたサガン鳥栖の選手との交流イベント、佐賀県授産施設協議会による「ほっとショップ」、佐賀大学PR大使の皆さんによる大学のアピールなど佐賀で活躍されている方々にも大学祭を盛り上げて頂きました。このように今回の大学祭が成功を収めることができましたのも、佐賀大学同窓会の皆様・地域の皆様・佐賀大学の皆様、その他大学祭に関わった全ての皆様のご支援の賜物です。心より感謝致します。本当にありがとうございました。



## 第7回キャリアデザイン～自分発見講座～

佐賀大学同窓会と佐賀大学の共催事業である標記講座が、10月より始まった。2単位の正式科目である本講座は、「職業進路指導」「人生設計」を挙げ、「大学で学ぶことの意味の再発見や社会の動向を知る契機となること」を期待して開講されている。

1～3年生までが対象。300名定員に、900名が希望する人気の講座である。単に就活の進め方ではなく、各界の最新情報やロールモデルを元に、自分を見つめ直す機会としてとらえる学生が多く、9割方は真剣そのものである。しかし、残念ながら若干名の不埒な学生（ほとんど男子学生）がいて、担当教授の叱責も意に介さない幼稚な私語が、老耳に障る。講師に対して、誠に申しわけない状況があることも事実である。

就職して間もない、OB、OGの話は、直接就活の進め方の参考になる。世界的不況のこの時代、合格や内定獲得者の取り組み、学習姿勢に思わず脱帽するような話も聴ける。また、経験豊かな先輩の話は、人生のキャリアアップにどう取り組み、豊かな人生設計をされているか、「人生のお手本」そのものも見ることができる。含蓄の深い言葉を聴き、我が人生と重ね、改めて努力不足を自省する。本講座は、極めて有意義な時間でもある。

学部を越えて、諸兄姉のキャリア観に触れるこの講座は、是非とも続けていきたい講座であると思う。

### 文責 事務局



### キャリアデザイン(自分発見講座)の日程 (平成23年10月5日～平成24年2月8日)

講義順	実施月日	内 容	担 当 者
1	10月5日	ガイダンス(講義の進め方)	
2	10月12日	経済学部出身の先輩に聞く	石丸 新 (S44・法律) 石丸会計事務所(税理士)
3	10月19日	理工学部出身の先輩に聞く	中村友美 (H22・数理) 福岡銀行 久留米営業部
4	10月26日	民間企業・公務員内定合格者体験報告会	在学生(就職内定者)
5	11月2日	文化教育学部出身の先輩に聞く	松永栄司 (H21・国際文化) 佐賀大学 情報企画室
6	11月9日	文化教育学部出身の先輩に聞く	林 志 (H22・学校教育) 多久市立北部小学校(教諭)
7	11月16日	理工学部出身の先輩に聞く	斎藤泰志 (H6・数学) ネクステック(株)(代表取締役)
8	11月30日	経済学部出身の先輩に聞く	泉 朋良 (H9・経済) 佐賀共栄銀行 人材開発室
9	12月7日	民間企業・公務員内定合格者体験報告会	在学生(就職内定者)
10	12月14日	医学部出身の先輩に聞く	枝國 源一郎 (H3・医学科) (医)源勇会枝國医院(医院長)
11	12月21日	医学部出身の先輩に聞く	永淵美樹 (H11・看護学科) 佐賀大学医学部附属病院(看護師)
12	1月11日	農学部出身の先輩に聞く	島田達生 (S42・農学科) 大分大学医学部名誉教授 大分医学技術専門学校(副校長)
13	1月18日	農学部出身の先輩に聞く	陣内章圭 (H19・応用生物) ポーラ化粧品本舗
14	1月25日	総括(1)	
15	2月1日	総括(2)(学生の質問に答える)	
16	2月8日	定期試験	

### 大学及び同窓会の動き (H23.7～H23.12)

- |  |   |
|--|---|
| <p>H23.7.1 佐大同窓会会報「楠の葉」No.15 発行<br/>5 佐賀大学校友会「代議員会」<br/>7 佐賀大学校友会「役員会」<br/>8 佐大同窓会「福岡地区支部総会・懇親会」<br/>／西鉄イン福岡13F「ブロッソ」<br/>28 佐大同窓会「クリエイティブ21総括・懇親会」<br/>／佐大「夢の実会館」多目的室<br/>8.11 佐大同窓会「第3回代表役員会」<br/>9.5 佐大同窓会 キャリアデザイン講座打ち合わせ会<br/>8 佐大同窓会「第4回代表役員会」<br/>10.7 第33回むつごろう祭(鍋島キャンパス)<br/>～9日まで<br/>13 佐大同窓会「第5回代表役員会」<br/>20 佐大同窓会「秋期定例役員会」</p> | <p>22 諫早支部懇親会／L&amp;Lホテルセンリュウ<br/>29 大分支部総会・懇親会／大分センチュリーホテル<br/>11.4 佐大同窓会会報「楠の葉」No.15 編集会議<br/>5 第14回佐賀大学大学祭(本庄キャンパス)<br/>～6日まで<br/>19 第19回佐賀県青春寮歌祭／エスプラッツホール<br/>19 山口支部総会・懇親会／国際ホテル宇部<br/>26 東海支部総会・懇親会／名鉄ニューグランドホテル<br/>30 佐賀大学同窓会と就職内定者との懇談会<br/>／大学会館<br/>12.15 佐大同窓会「第6回代表役員会」<br/>・「佛淵学長を囲む会」／佐嘉神社記念館</p> |
|--|---|

\*単位提供講座「キャリアデザイン」は上記日程表記載あり

ご意見  
メール  
等募集

会報についてのご意見をお寄せいただく場合は、郵送のほか電話またはE-mailでも受付けております。